

博士前期課程（修士） / 共通科目 / 共通科目

科目コード：200011

臨床薬理 Clinical pharmacology

担当教員	長谷川 昇、西尾 真友、梶波 康二、吉田 純子、高原 豊、益岡 尚由 白枝 久和、松井 真、石橋 隆治、北田 宗弘、元雄 良治、北山 幸枝				
------	--	--	--	--	--

実務経験					
------	--	--	--	--	--

開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義
必修・選択	選択	時間数	30		

Keywords					
----------	--	--	--	--	--

学習目的・目標	薬物療法が必要な患者に対し、疾病の治療・生活力回復の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のための看護、薬剤使用の看護、薬剤使用の判断、モニタリングを実践できる能力を習得する為に、障害機能別の薬剤療法と使用法の注意点の知識と、薬剤相互作用などの知識を学ぶ。達成目標 薬物治療の基礎知識（薬物動態、作用、副作用、禁忌）が解る 病態に基づく薬剤の選択方法が解る 臨床で使用される薬剤・副作用・投与時の注意点、モニタリングの注意点が解る				
---------	---	--	--	--	--

授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
1	薬物の作用（薬の役割、剤形、法的分類）	講義	長谷川
2	薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）、副作用、相乗効果	講義	長谷川
3	循環器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	西尾
4	循環器系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 心不全、抗不整脈・心筋梗塞、利尿薬など	講義	梶波
5	感染症、呼吸器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	吉田
6	感染症、呼吸器系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 抗菌薬・気管支炎喘息、肺がんなど	講義	高原
7	消化器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	益岡
8	消化器系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 消化性腫瘍・過敏性腸症候群など、	講義	白枝
9	中枢神経系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	西尾
10	中枢神経系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 脳梗塞・てんかん、パーキンソン病など、	講義	松井
11	内分泌、代謝疾患の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	石橋
12	内分泌、代謝疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 糖尿病・痛風など、	講義	北田
13	腫瘍の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	吉田
14	腫瘍の臨床における薬剤の使用法とその考え方 化学療法、	講義	元雄
15	講義内容の看護への活用・展開についての討議	講義討論	北山・長谷川

教科書	授業の中で提示する
-----	-----------

参考図書等	授業の中で提示する
-------	-----------

評価指標	レポート80%、毎回のコメントシート20%
------	-----------------------

関連科目	
------	--

教員から学生へのメッセージ	科学的な考え方を理解し、今後の専門看護に大いに役立たせてください。
---------------	-----------------------------------